

2020年度

S D

小 論 文

3月12日(木)

人 文 社 会 科 学 部 (経済学科)

10:00 ~ 11:30

【後 期 日 程】

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(3枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、4ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙(3枚)を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 解答用紙の使い方については、裏面の『注意事項』を参照してください。
- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

『注意事項』

1. 書き出しは、一マスあけない。
2. 改行したら、一番上の一マスをあける。
3. 読点には「，」を使用し、句点には「。」を使用し、それぞれ一マスとする。ただし、行の末尾については文字と同じ一マスに含める。
4. 小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」は一マスで使う。
5. 数字と英字の書き方は、下の例に従い、二文字で一マスを使う。
数字例：123であれば、「12」と「3」で二マス使用。
英字例：abcであれば、「ab」と「c」で二マス使用。

次の文章は、橘木俊詔著『21 世紀日本の格差』（岩波書店，2016 年）の一部である。この文章を読み，問 1 から問 3 に答えなさい。

（著作権許諾手続中）

(著作権許諾手続中)

(著作権許諾手続中)

(著作権許諾手続中)

出典：橘木俊詔著『21 世紀日本の格差』（岩波書店，2016 年）117—124 頁。

なお，出題にあたって，縦書きを横書きに変更し，一部の漢数字は算用数字に置き換えてある。原文にあった小見出しは削除し，原文にない注(1)～(5)を追加した。

注 1 トマ・ピケティ著，山形浩生・守岡桜・森本正史訳『21 世紀の資本』みすず書房，2014 年。

注 2 OECD とは，「Organisation for Economic Co-operation and Development：経済協力開発機構」の略である。

注 3 セイフティーネットとは安全網と訳され，社会全体に対して安全や安心を提供する仕組みのことである。

注 4 橘木俊詔・浦川邦夫著『日本の貧困研究』東京大学出版会，2006 年。

注 5 筆者は OECD (2014) “Rising Inequality: Youth and Poor Fall Further Behind” から主要先進国の相対的貧困率 (2010 年度) のデータを使用。

問 1 筆者は他の主要先進諸国に対して，日本の格差をどのように特徴づけているか，150 字以内で要約しなさい。(配点 30 %)

問 2 OECD の定義に従って，相対的貧困率の求め方を 100 字以内で説明しなさい。(配点 20 %)

問 3 格差の是正に関して，一方で高所得者の所得を下げるべき，他方で低所得者の所得を上げるべき，という議論があります。日本社会の現状を踏まえて，格差を是正するためのあなたの考えを 350 字以上 400 字以内で明確に述べなさい。(配点 50 %)